

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

三重県の僻地における認知症支援体制構築に関する研究

研究分担者 新堂晃大 三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学

研究要旨

三重県の医師不足地域における認知症診療の質向上を目的とし、遠隔スクリーニングや住民向けの啓発活動、認知機能低下予防教室の実施を通じて、地域ニーズに即した対応を進めている。2024年度は、南伊勢町にて地域住民向けの認知症勉強会を開始し、地域の理解促進を図った。また、認知機能低下予防教室の地域展開に向けて、他施設の視察や聞き取り調査を行い、プログラムの改良を進めた。さらに、パーキンソン病患者の高齢化に伴う認知症合併と通院困難に対応するため、遠隔での深部刺激療法（DBS）調整に向けた準備も開始した。ITを活用した認知症スクリーニングは継続して実施され、今年度も9例の評価を行った。

A. 研究目的

三重県の医師不足地域では認知症専門医受診のハードルが高く、受診そのものの必要性判断が困難なことがある。2014年度より三重県では認知症疑い患者の相談として、三重県医師会と共同でITスクリーニングを行い、僻地を中心に遠隔でのスクリーニングを行っている。さらに地域における認知症診療のニーズを把握するため、地域での勉強会を行い、さらに現地調査から認知機能低下予防教室の要望があることが判明し、地域実装のため三重大学で実施している。本研究では予防教室の質を確保し、地域実装が可能なようにプログラムの検討も実施した。さらに認知症を伴うパーキンソン病に関し、深部刺激療法（DBS）後の調整が遠隔で可能か検討した。

B. 研究方法

三重県における医師不足地域において、ITスクリーニングを実施した。また医師不足地域の一つである東紀州地域の紀南病院を訪問し、認知症診療、認知症予防などのニーズや問題点に関する聞き取り調査を行った。さらに認知機能低下予防教室の開催を三重大学医学部附属病院で定期的な実施、質の向上のため他県における調査、他府県での認知症診療や研究に関する勉強会の開催を行った。

（倫理面への配慮）

三重大学医学系倫理審査委員会の承認を得て実施し（承認番号 H2019-114、H2023-170）、さらに個人情報の保護には細心の注意を払った。

C. 研究結果

三重県の医師不足地域における認知症の IT スクリーニングでは地域の医療機関と連携しスクリーニングを実施した。三重県東紀州地区は紀南病院と、そして伊賀上野地区は上野病院、名張市立病院と連携している。2024 年度は合計 9 例実施した。また、三重県南伊勢町において地域住民に対し認知症に関する勉強会を実施し、認知症の診療や認知機能低下予防に関する知識を普及した。三重大学医学部附属病院において実施している認知機能低下予防教室の実際を紹介し、さらに地域での実装が可能なように他県での調査も行い、検討をすすめた。また医師不足地域でパーキンソン病に対し DBS を実施した患者が高齢になり認知症を伴った症例に関し、遠隔での刺激調整体制の相談を行った。

D. 考察

医師不足地域では専門医そのものの不足のほか、受診におけるアクセスの問題、さらには認知症予防教室のような一般高齢者がアクセスしやすい活動など様々なニーズがあることが判明した。さらに近年様々な治療がパーキンソン病に対して行われるようになったが、深部刺激療法 DBS を行ってから高齢化した症例では特に認知機能低下のみならず ADL 低下もあるため専門医受診が困難になっていることも判明した。専門医受診につなげるにあたり、三重県では以前から遠隔 IT スクリーニングを行っており、これを引き続き実施していく必要がある。さらに認知機能低下予防教室に関しては地域での実装が可能なプログラムを作成している。2025 年度は地域で実施

していく予定である。

E. 結論

今回明らかになった課題に対して、IT スクリーニング事業は引き続き実施し、さらには認知機能低下予防教室の普及、DBS 後患者の遠隔診療などを実施していくことが課題として挙げられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

川北澄枝, 新堂晃大: 認知症スクリーニングを用いた三重県のへき地の認知症医療支援システム構築の取り組み. 老年精神医学雑誌 35:47-53(2024)

2. 学会発表

シンポジウム 31「DMT の新時代を迎え、認知症疾患医療センターの立ち位置」
新堂晃大: 疾患修飾薬の登場と地域医療、医師不足地域での問題. 第 43 回認知症学会学術集会 (2024 年 11 月).

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む.)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし